

事務事業評価表 平成25年度

政策 明日につながる産業の振興
 施策 商業の振興
 基本事業 観光・イベントによる賑わいの創造

事業名 **北海鳴子まつり事業補助金**

[0080]

部名	経済部	事業開始年度	- 年度	実施計画事業認定	非対象
課名	商工労働課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	(誰、何に対して事業を行うのか) えべつ北海鳴子まつり実行委員会
意図	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか) 市民相互の交流、観光客の満足度の向上
手段	(事務事業の内容、やり方、手段) えべつ北海鳴子まつり実行委員会への補助金の交付

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度当初
対象指標1	実行委員会構成団体数	団体	12	12	12	12
対象指標2	出場チーム数	団体	28	29	43	45
活動指標1	補助金額	千円	1,700	1,700	1,700	1,700
活動指標2						
成果指標1	来場者数	人	21,500	21,300	23,000	25,000
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	1,700	1,700	1,700	1,700
正職員人件費 (B)		千円	806	803	802	806
総事業費 (A) + (B)		千円	2,506	2,503	2,502	2,506

費用内訳	
24年度	負担金 補助及び交付金 1,700千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	札幌で開催されるYOSAKOIソーランまつりが大規模化する中、いわゆる「YOSAKOIブーム」の流れの中で、各地で類似のイベントが多く開催されるようになっていく。北海鳴子まつり先、鳴子チームより先YOSAKOIチームが多い年もあるなど、鳴子まつりとしての独自性が保ちづらい状況である。 しかし、この類の祭りは、次第に“北海道的”な風物詩ともなりつつあり、えべつ北海鳴子まつりは、類似イベントの中では北海道内でも大規模なイベントとなっている。
--------	--	-------------	---

24年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業
 妥当である
 妥当性が低い

理由・
 根拠は？

参加型のイベントは、郷土愛を育むものでもあり、長期間にわたる練習への参加で市民相互の交流が深まっており、補助金という後方支援は妥当。

(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい
 貢献度ふつう
 貢献度小さい
 基礎的事務事業

理由・
 根拠は？

主に市民相互の交流が中心であるが、一定程度市外からの入り込みもあると思われる、また賑わいが創造されており、観光イベント事業への貢献はある。

(3) 計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

あがっている
 どちらかといえばあがっている
 あがらない

理由・
 根拠は？

一定規模の来場者を集めている部分では評価できる。

(4) 成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大
 成果向上余地 中
 成果向上余地 小・なし

理由・
 根拠は？

札幌で開催されるYOSAKOIソーランまつりの影響で、道内各地で類似のイベントが流行となっており、同様の形態のイベントである限り、この流行の成り行き如何であるが、これらは次第に“北海道的”な文化として成長しつつあり、性急に判断できかねる。

(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算 + 所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある
 ない

理由・
 根拠は？

実行委員会では、既に野幌地区市民まつりとの同時開催を実施しているほか、グッズの販売などによる自主財源の確保につとめ、補助金額減少に対応している。しかし、ステージや音響設備など一定の固定費がかかるため、事業の存続は限界近くに達している。
 一方で協賛金の確保については、経済情勢にも左右されるため、大手スポンサーや企業ぐるみの参加があれば、コスト削減の可能性はあるが、現時点では難しい。